

ノーリフティングケア 取組からの2年間を振り返って

～ 自己流からの脱却は？ 進歩はあったか？ ～

社会福祉法人 飯塚市社会福祉協議会
特別養護老人ホーム 筑穂桜の園
(ちくほさくらのその)

筑穂桜の園 20年のあゆみ ①

2005年5月

筑豊地域では初めての小規模ユニット型施設として開所する
開所当初から浴室に入浴用天井走行型リフトが設置されており、
抱え上げない介護はこの時から始まっていた。



2011年

浴室設置型リフトを1台追加



スライディングボード、シート、グローブ等も併せて使用していたが定着はしなかった

2015年

床走行式リフト導入 1台目



2019年

床走行式リフト導入 2台目

筑穂桜の園 20年のあゆみ ②

2020年 スタンディングリフト導入 1台目

1号



2021年 スタンディングリフト導入 2台目
独自で「ノーリフティングケア委員会」を立ち上げる
・動画配信 内部研修 事例検討 就業前体操
・福祉用具を積極的に使用

2号



3号



2022年 スタンディングリフト導入 3台目

2023年 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業へ参加



1年目の振り返り

技術面 ⇒ 独学との違いに 戸惑いと気づき

- ・自己流が定着しており、細かな技術指導の理解が難しかった
- ・誤った手技の危険性の再認識 ・技術指導者が育っていない

マネジメント ⇒ リスク集約 個別のPDCAサイクル実施
福祉用具の整理

- ・達成できなかったことや、出来ていないことがいっぱい

腰痛調査結果 ⇒ 下手な手技でも腰痛軽減に直結していた

- ・今まで実践してきたことがアンケートの結果に反映された
- ・自己流介護技術の修正をし、腰痛軽減を継続させたい

2年目スタート 技術面①

2名の指導者候補が技術研修
に3日間参加



難しい～
3日間では覚え
きれない～

理由
学ぶスタッフが
2年目交代した
ため

出張研修を受ける



「ひばり」さん、
ご協力ありがとうございました



委員会メンバーが個別に指導を受けるこ
とができ、理解も深まった。

講義と実技指導は大変有意義な研修会
だった。

筑豊地域連絡協議会主催の
実技研修に新人2名が参加



本陣園にて

*ノーリフティングケアの必要性が理解で
きた。
*不良姿勢に気づかされた。
*支持基底面や体重移動が理解できた。
*ご利用者のため、自分のためだとい
うことが理解できた。必ず実践したい。…
等

技術面②

施設内での研修

課題

- ①ビデオ視聴による自己学習に加え、実際に実技指導するが、その時は上手くできていても、実際にご利用者の介助時は自己流が出ており、統一されていない
- ②座りなおし等がうまくできず苦戦しており、つい抱えてしまっている
- ③新人指導では、実際のご利用者で直接体験し、やり方をマスターしてもらった
- ④指導中に腰の捻り方を間違ったことで腰痛の引き金となった

施設外での研修

効果

外部への研修や出張講習を受けたことで、施設内では学べないことも他の施設の方の意見を聞くことが出来て、刺激となった

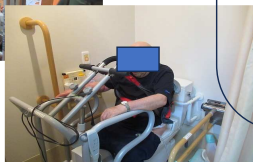
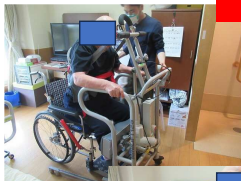
楽しく学ぶことができた

マネジメント

令和6年度 リスク意見の取り組み開始

- ①「吊られる」ことを拒むご利用者様を、スタンディングリフトなら介助できるか
- ②まずは、安全に移動ができることを丁寧に説明
- ③「お試しということならば」と、協力を得ることができた
互いの信頼関係の下に、承諾に至った

リフトが嫌なら スタンディングリフトで



・3年程前に病気で下半身麻痺なり、それ以降、着座できずトイレ使用を断念。

・今回の、スタンディングリフトでのチャレンジで 数年ぶりに便座に座れた。
・感動のトイレ着座がきっかけで、スタンディングリフトの活用幅が広がった。
(例:入浴時の更衣介助・シャワースへの移乗など)

・これは介助の大きな前進となった。

福祉用具の使用状況

12月17日現在

3か月に1回調査し、福祉用具の
更なる導入に向けて、購入計画を
進めていきたいと思ひます！

こんなに使用していたとは思っていません

(リフト使用者)
床走行式リフト
スタンディングリフト

1名
8名

(ボード・シート等使用者)
スライディングボード
フレックスボード
スライディングシート
グローブ

14名
2名
2名
3名

(入浴時の対応)
特殊浴槽(機械浴)
入浴リフト

7名
16名

移動手段 入居者 定員 30名
現在 29名

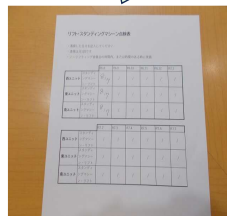
歩 行 器 7名
車 椅 子 13名
リクライニング車椅子 2名
ティルト付車椅子 2名
ティルト付リクライニング車椅子 5名

福祉用具の管理①

福祉用具管理表
(3ヶ月毎に見直し
できている)

- ①委員会で話し合い、月1回
担当者が自分のユニットの点
検を行うようにした
- ②点検表にチェックを入れる

修理が必要な福祉用
具は早急に業者に依
頼する等の手続きがス
ムーズになった



簡単な点検表
はあるがマ
ニュアル表は
なく完璧では
ない



ベッドリモコン故障



車椅子パンク



ブレーキ

福祉用具の管理②

1年目

福祉用具管理表 未作成のため点検できていなかった



2年目

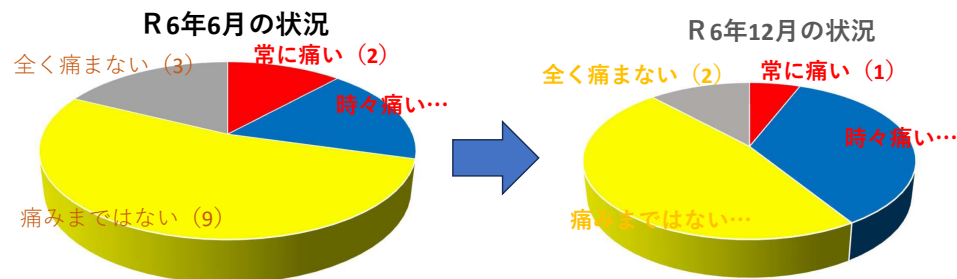
**福祉用具管理表が出来たので定期的に点検
が実施できるようになり管理しやすくなった**



3年目（目標）

**点検マニュアル表を作成し、確実に管理しやすい
ようにする
新たな福祉用具購入へとつなげていきたい**

腰痛調査結果



【腰痛調査結果から見えるもの】

*腰痛保持者が増えた **令和6年6月 29% ⇒ ⇒ 令和6年12月 41%**

*原因として

- ① 職員の交替（6月～12月）： 退職2名（6月・7月）、新人入社2名（8月・10月）
- ② 「常に痛い」の1名は持病であるため、変化することはない。
- ③ 「時々痛い」の6名の内訳（4月入社の40歳台1名、8月入社の30歳台後半1名、50歳台後半1名、60歳台前半1名と後半2名）
- ④ 入居者の変化： 介護度 6月 4.1 ⇒ 12月 4.26
- ⑤ 職員の一部抱え上げあり： 6月 4名 ⇒ 12月 5名
- ⑥ 基礎技術が定着していないことも要因（特に車椅子上での座りなおしの時に抱えていることがある）

今後に向けて

2年目の成果

- ・リフトを拒んでいたご利用者に対して、スタンディングリフトをお試しで行ったことにより、**適応機種の選定と活用の幅が広がった。**
- ・自己流は根強く定着しており、技術指導を受けて伝達していったが、なかなか改善されていない。しかし完璧ではないがわずかながら改善へと向かっている
- ・新人職員教育として地域連絡協議会主催の研修会へ参加できたことや先輩施設からの出張研修を受けられたことは職員への刺激となり、新たな取り組みへのスタートとして、とても有意義だった
- ・福祉用具管理表が昨年より見やすくなり、わずかながらでも管理しやすくなった

課題

- ・技術指導者の増員
- ・まだまだ自己流で介護している⇒⇒統一した技術を習得する
- ・リスク抽出に向けてのラウンドが出来ていない
- ・福祉用具管理を確実にいき安全に使用出来るように点検マニュアル表の作成に着手